様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：１２６０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ００７１７

研究課題名（和文）「手づくり」をめぐる生活文化の継承・創出と生活改善実践力の総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive research on handmade items related to the inheritance and creation of life culture

研究代表者
渡瀬　典子（WATASE, Noriko）

東京学芸大学・教育学部・准教授

研究者番号：９０３３３７４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は生活文化における「手づくり」という日常的生活行為に注目し，生活価値観形成，地域社会の生活文化の継承・創出に焦点を当てた。「近現代の生活における“手づくり”に対する意味づけ」では，雑誌／新聞記事を分析した結果，1960年代以降，手づくりに関する記事の減少・易化が進行した。「学校教育，社会教育における“手づくり”に関する実践」分析では，家庭科の被服製作，調理実習教材も学習指導要領改訂と共に，掲載内容・教材数が縮小化したことを確認した。「“手づくり”を通した社会参加活動，社会関係資本形成」の事例分析では，東日本大震災後，中高年の女性による小規模の“手づくり”を軸とした活動が生まれていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
第二次大戦中後の物資不足，その後のライフスタイルの欧米化を経て，“手づくり”という生活行為は「必要」から「ある種の豊かさ」へと変化した。それでは“手づくり”をめぐる生活文化はどのように変わったのか。本研究は，①雑誌・新聞記事等のメディア，②生活文化の継承・創造に関連する学校教育・社会教育，③各種コミュニティにおける実践活動，という３空間を分析対象に設定し，1940年代～現在で変わった／変わらなかったことを複層的に検証した点に学術的意義を置く。そして，生活文化の継承がなされず「変わった」り，外部化された“手づくり”という生活行為の再考，価値づけの再定義をすることに社会的意義があると考える。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on “handmade” items in life culture and on the living sense of values formation as well as the succession and creation of the life culture of a community. Researchers analyzed magazine/newspaper articles about the implication of handmade products in modern life and found that, after the 1960s, the number of articles decreased and the published techniques became simpler.
The analysis of the practice of handmade products in school education and social education revealed that the number of teaching materials related to sewing and cooking have been reduced in Home Economics education along with revisions to the course of study. Using a case analysis about social participation activities and social capital formation through handmade products, this study confirms that the activity of middle-aged women in making handmade items contributed to relationship building.

研究分野：家庭科教育学

キーワード：手づくり　生活文化　家庭科教育　社会関係資本

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

第二次大戦中の統制を経て,戦後日本人の衣食をめぐるライフスタイル選好は様変わりした。Cline(2014)は，流行のファッションが世界的規模で瞬く間に生産・流通され，消費者に供給される実態が必ずしも消費者にプラスの側面をもたらすものではないと警鐘を鳴らし，「手づくり」にその隘路から抜け出す希望を見出した。また，東日本大震災以降，日常生活を取り戻すきっかけ，生業として「手づくり」が寄与した事例や(永松 2011等)，住民間のつながりの中で「手づくり」が大きな役割を果たした事例も報告されている(渡瀬 2014等)。社会参加活動における「手づくり」は生活文化の継承・創出，地域社会の産業創出（例：6次産業化）など各地で取り組まれ，“地域らしさ”の一端を表す「まちづくり」にも貢献している(農文協 2014)。本研究では「手づくり(handmade)」という語を「使用する材料・工程を吟味し，自ら作り上げる日常生活場面の生活行為」と捉えた。「手づくり」を核とした生活の捉え直し・再検証は，近現代の学校教育，社会教育の場で“生活について学び，実践すること”の足跡を見渡し，日本型の家政教育・家庭科教育を再評価する方法論ともなりうるものと考えられる。

２．研究の目的

近現代の技術革新を経て「生産」「消費」をめぐる生活価値観の在り様は，地域社会の生活文化の継承・創出に影響を与えていると推察される。よりよい暮らしのため工夫・改善されてきた生活文化を(クリティカルに)評価し,伝え･改善することは教育的側面からも重要な事柄である。そこで，本研究は「手づくり」という日常的生活行為に焦点を当て，①家政学的アプローチと生活科学論的アプローチによる近現代の生活における「手づくり」に対する意味づけ･思想的系譜，②学校教育(家庭科教育・家政教育)，社会教育における「生活文化」の継承・創出,「手づくり」に関する実践の教材解釈・意味付けの変容,③「手づくり」を通した社会参加活動・まちづくり，社会関係資本形成の効果　を明らかにし「手づくり」が持つ教育的意味・意義を生活文化の側面から再考し実践化を目指す。

３．研究の方法

(1)「近現代の生活における「手づくり」に対する意味づけ・思想的系譜の分析（歴史的側面の整理)」では，1940 年代後半以降に出版・発行された，女性が主な想定読者である生活情報誌を中心に内容分析を実施した。以下の雑誌が分析対象誌である（『婦人之友』『装苑』『暮しの手帖』『REAL　SIMPLE』『ドレスメーキング』『ジュニアスタイル』『婦人百科』『おしゃれ工房』『素敵にハンドメイド』)。雑誌のほかに，全国紙（朝日・毎日・読売）の生活面に掲載された「手づくり」に関する内容の記事を分析対象として，記載内容の変化を見た。

(2)「学校教育，社会教育における『生活文化』,『手づくり』に関する実践の教材解釈・意味付けの変容分析（教育実践分析）」では，家庭科教育を中心に学習指導要領，教科書，教育実践に関する資料，報告書，調査データによる文献調査を実施した。また，被服製作実習，調理実習に関連する（質問紙）調査を実施した。

(3)「『手づくり』を通した社会参加活動・まちづくり，社会関係資本形成等の調査・事例分析(実践化への方策提案)」では,「手づくり」に関する活動を軸に展開する諸団体の実践報告分析，インタビュー調査等を実施した。

４．研究成果

(1)「近現代の生活における「手づくり」に対する意味づけ・思想的系譜の分析（歴史的側面の整理)」

生活時間調査の分析から，成年男子・女子の「手づくり」（和裁，洋裁等）にかける生活時間配分の変化をみたところ，「余暇としての手づくり時間」は高度経済成長期頃，若干増えた後，減少に転じた。この結果を踏まえて NHK による「婦人百科（おしゃれ工房，すてきにハンドメイド）」に掲載されたソーイング記事を分析した結果，「簡単に早く作ることができる」内容への変化が見られた。次に，「女子中高生」と「手づくり」との関係に注目し，彼女たちがソーイングに親和的になる要因を探ったところ，友人に「手づくりプレゼント」を贈る風潮が 80 年代前後に顕著に現れたことを確認した。彼女たちは「団塊ジュニア世代」にあたり，現代の消費文化の中心にも位置する。そこで，同世代のライフスタイルの特徴を消費文化の観点から検討を行った。

次に，「衣服をつくり変える」ことの意味づけについて，『装苑』をもとに分析した。第二次大戦中・後の時期は「衣服をつくり変える(更生服など)」ことは物資不足や着装転換で必要に迫られた生活行為であった。しかし，「衣服をつくり変える」ことは現在，日常生活行為とは言い難いが，同誌の記事の分析からプラスの意味づけがなされている状況が見られた。

全国紙の生活欄(家庭欄)の記事について分析した結果，1950年代の記事では「実用」という側面から，子ども服から農業用の改良着まで多岐に渡る手づくり記事が掲載されていたが，近年掲載された記事には衣服の手づくりに関する実用記事は激減した。その一方で，震災復興の際の生活再建において手芸・編み物などの手づくり活動が住民の「精神的支え」になりうることが言及され，「手づくり」に対しての語られ方に変化が見られた。また，1950年代と現代の家庭調理に関する記事を比較すると，現代は少人数用のレシピになり，平均調理時間も短縮化される傾向が見られた。また，1950年代の記事では「家庭調理」の目的が「節約」であり，読者（調理者）は「女性（主婦）」を想定した説明がされていたが，現代は「栄養への配慮」を主目的とし，想定読者は主婦だけに限定されない書き方に変化した。

(2)「学校教育，社会教育における『生活文化』,『手づくり』に関する実践の教材解釈・意味付けの変容分析（教育実践分析)」

家庭科教育の特徴である「生活をよりよくする」観点に照らし,「生活文化」の継承・創出,「手づくり」ための実践がどのように課題化・教材化されたかについて類型化し，課題の一端を明らかにするため，以下の分析を行った。はじめに，昭和期(第二次大戦前・中)に行われた地方都市の裁縫科教育の実践研究資料を分析した結果，地域に根差した教材よりも，教科書等で扱われる内容の実践が中心だった。また，裁縫科(手工科・手芸を含む)の教材の特徴でもある編み物教材に注目し，第二次大戦後の家庭科教育における編み物教材の扱いについて分析した結果，教科の総学習時間の減少と共に授業で取り上げられる機会も減少したことが明らかになった。

「手づくり」を生活の中に取り入れるためのきっかけとして，「学習するための場」が重要である。本研究では，高等学校の「家庭に関する学科」の開設状況及び生徒数についてその推移をみたところ，いずれも減少していた。また「21世紀型スキル」とアメリカの学校家庭クラブ活動との関わりに焦点を当て，社会教育との連携，文化的活動の取り組み等について考察をした。日本の高等学校学習指導要領でも，社会との関わりを視座に置いた学校家庭クラブ活動の充実についてふれられており，「手づくり」を含む実践活動等についての今後の展開について検討した。次に，イギリスの中等学校における調理の学習に焦点を当て，イギリスのカリキ

ュラムにおいて，生徒が身に付けるべきスキルをどのように捉えているか，各学校の指導計画等をもとに考察した。また，日本の家庭科教育を通して身に付ける調理スキルについて，「食事を整える」という観点から検討した。

(3)「『手づくり』を通した社会参加活動・まちづくり，社会関係資本形成等の調査・事例分析(実践化への方策提案)」

日本の高等学校家庭科で実践されている「学校家庭クラブ活動」，アメリカの学校家庭クラブ活動であるFCCLA(Family, Career and Community Leaders of America)を事例とし，個人的営みである「手づくり」がどのようにネットワーク形成に寄与できるか検討した。また，地縁的ネットワークによる社会参加活動として，東日本大震災後の「手づくりサークル」の取り組みに注目し，活動内容の広がり・変化について考察した。ネットワーク形成という視点から，「高齢者生きがいづくり事業」に着目し，同事業における社会参加活動と「手づくり」にかかわる取り組みについて分析した。「手づくり」を通した社会参加活動は，中高年の女性が多く，男性が活動に参加するためのきっかけづくりが課題となっていることが改めて浮き彫りとなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 渡瀬典子	４．巻 17
２．論文標題 「衣服をつくり変える」ことの意義の変容　－雑誌『装苑』に現れる「更生服」－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東北家庭科教育研究	６．最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 渡瀬典子	４．巻 17
２．論文標題 岩手県の中学生とウール製品　　衣生活における「購入・手入れ・廃棄」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 岩手大学教育実践総合センター紀要	６．最初と最後の頁 107-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 渡瀬　典子	４．巻 16
２．論文標題 団塊ジュニア世代のライフスタイルの志向と生活改善観　雑誌『ＲＥＡＬ ＳＩＭＰＬＥ』をもとに	５．発行年 2017年
３．雑誌名 岩手大学教育実践総合センター紀要	６．最初と最後の頁 145-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） ISSN1347-2216	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 渡瀬　典子	４．巻 16
２．論文標題 「消費者市民」育成を目指す消費者教育実践の課題と展望　－アメリカの家庭科教育における「消費」「環境」に関する学習目標を視座に入れて－	５．発行年 2017年
３．雑誌名 東北家庭科教育研究	６．最初と最後の頁 68-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） ISSN1347-331X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡瀬典子	4．巻 15
2．論文標題 「技術・家庭科」における「手芸」の中の「編み物」教材を再考する　―「生活技術」の視点から　―	5．発行年 2016年
3．雑誌名 岩手大学教育実践総合センター紀要	6．最初と最後の頁 169-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） ISSN 1347-2216	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Noriko Watase	4．巻 13
2．論文標題 Improving the Capacities of Inservice Home Economics Teachers : Focus on the Practice of Consumer Education	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Canadian Symposium13 proceedings	6．最初と最後の頁 182-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡瀬典子、八重樫英広、馬内幸恵、長澤由喜子	4．巻 3
2．論文標題 家庭科教育における生活文化に根差した地域の伝統産業としての「ものづくり」教材の検討	5．発行年 2016年
3．雑誌名 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集	6．最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） ISSN 2189-4582	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Noriko Watase,	4．巻 15
2．論文標題 How can home economics education support post-disaster living conditions?	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Home Economics/Family Studies/ Human Ecology/ Family & Consumer Science Education: Issues & Directions	6．最初と最後の頁 198-206
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計19件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Noriko Watase
２．発表標題 How can home economics education support post-disaster living conditions?
３．学会等名 Canadian Symposium15（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 アメリカの家庭科教育における「21世紀型スキル」の育成　「学校家庭クラブ活動とのつながり」を中心に
３．学会等名 日本家庭科教育学会　例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 小学校家庭科におけるマインドフルネスの視点を入れた「だし」の学習教材の検討
３．学会等名 日本家庭科教育学会 大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 新聞の「生活面」に現れるライフスタイルの変容と「手づくり」
３．学会等名 日本家政学会　大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 「衣服をつくり変える」ことの意義の変容　－雑誌『装苑』に現れる「更生服」から「アップサイクル」－
３．学会等名 日本家政学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 ブリティッシュコロンビア州のカリキュラム改革と家庭科教育－応用技能からADSTへ－
３．学会等名 日本家庭科教育学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Noriko Watase
２．発表標題 What do elementary school students think about applying their basic daily life skills in their lives?
３．学会等名 ARAHE2017(アジア家政学会）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 岩手県の高齢者生きがいづくり事業に現れる社会参加活動
３．学会等名 日本家政学会　東北・北海道支部大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 高等学校における「家庭に関する学科」の変容－岩手県の場合－
３．学会等名 日本家庭科教育学会　東北地区会
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡瀬　典子
２．発表標題 1970-80年代の女子中高生とソーイング -『ジュニアスタイル』から見る手作りのあるライフスタイル-
３．学会等名 日本家政学会　第68回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 渡瀬　典子
２．発表標題 小学校裁縫科における裁縫標本の意義　-「岩手県小学校連合女教員会」の裁縫科実践研究-
３．学会等名 日本家庭科教育学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Noriko Watase
２．発表標題 Issues concerning teaching students to fix a meal in a home economics class
３．学会等名 IFHE(国際家政学会)2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 渡瀬　典子
２．発表標題 中学生のウール製品との付き合い方　―購入・手入れ・廃棄―
３．学会等名 日本家庭科教育学会　東北地区会
４．発表年 2016年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 20世紀末の余暇活動における「手芸」 -NHK「婦人百科」を対象に-
３．学会等名 日本家政学会　第67回大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 戦前期における「岩手県小学校連合女教員会」の裁縫科実践研究
３．学会等名 日本家庭科教育学会
４．発表年 2015年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 「技術・家庭科」における「手芸」が目指したものは何か―「編み物」教材の扱い　―
３．学会等名 日本家庭科教育学会　東北地区会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Noriko Watase
２．発表標題 How did recipes for home cooking change? -Focus on "meal preparation time"-
３．学会等名 ARAHE(アジア家政学会)2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 イギリスの中等学校における食生活に関する学習 「健康」と「調理技術の向上」 を視点として
３．学会等名 日本家庭科教育学会第62回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 渡瀬典子
２．発表標題 新聞の「生活面(家庭欄)」に掲載された料理記事に表れるライフスタイルの変容
３．学会等名 日本家政学会第71回大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 赤塚朋子，荒井紀子，河村美穂，高木直，室雅子，望月一枝，渡瀬典子，外10名	４．発行年 2015年
２．出版社 ドメス出版	５．総ページ数 214
３．書名 市民社会をひらく家庭科	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考